

日本看護歴史学会 会報

日本看護歴史学会
第7号
1990年3月30日

一九九〇年年の始めに思うこと

山本捷子

去年の一月七日は昭和天皇の崩御の日で、本学会幹事が京都市立看護短大に集い、一九八九年の企画を討議していた席に「新しい年号が『平成』に決った」というニュースがもたらされた記念すべき一日になりました。さらに六月には「歌謡界の女王」美空ひばりが逝きました。テレビやラジオで何度も放送されるひばりの歌や映画を聞いたり見たりしながら、彼女とほぼ同じ時代を生きてきた私は日中・太平洋戦争、貧困と混乱の戦後から高度経済成長の現在までを振り返り、考えることの多い一年間でした。一方、世界に眼を向けてみれば、中国北京の天安門広場に、ベルリンに、東欧諸国に、

独裁・共産社会主義体制からの自由化、民主化を求める激しい動きで年が暮れ、二十世紀最後の十年間の幕が明きました。世界は激動し、社会には多様な価値観が渦巻き、高度な科学技術の進歩と地球破壊等々豊かさと裏返しに世相は益々混沌とし、うすら寒ささえ覚える昨今です。そのような世の中で、自分が直接関与している看護・医療・教育の世界はどのような変貌しているのか、これからどう進んでいくのか、そして自分はその中でどうありたいのか、等々考えてみますが、答はなかなか簡単にはみつきりそうにありません。歴史家B・H・カーは著書「歴史とは何か」の中で「歴史とは現在と過去との対話である。現在に生きる私たちは、過去を主体的にとらえることなしに未来への展望をたてることはできない」と言っています。

過去の出来ごとや生活の状況を知らずして、未知なるものへの探求としてそれなりに楽しいものです。吉野ケ里遺跡が人気を集めているのはそれを物語っています。しかし、歴史探求は過去の出来ごとへの掘り起しにとどまらず、その意味をも追求する奥深さがあるようです。「昭和が終った」という言葉には、「昭和」の歴史を改めて認識することを求めているように感じます。去年に続く今年もまた私達の過去をたどり、その意味を考え、未来への礎を固める作業を続けてゆきたいものと思います。

さて、一九九〇年の今年、看護歴史に関心をもつ者にとって、どのような意味があるかといえば、その一つは日本赤十字社による看護婦養成開始百周年ということであり、もう一つはこの四月から看護教育カリキュラムが改正されることを挙げる事ができます。

一昨年は一八八八年にわが国で四つの看護婦養成機関から組織的な訓練を受けた看護婦が巣立って以来、百年の記念の年でした。その二年後に日本赤十字社の看護婦養成が始められたわけですが、その背景にあるもの、前の四校との違い、その当時の日本や世界の状況、戦争だけでなく社会の動きと日赤看護婦の活動との関係等々興味はつきません。今年の日赤の看護婦のことをじっくり考える絶好の機会だと思われまます。

カリキュラムの改正についてはわが国の看護界には看護学を、変化する社会に対応させ、専門職として確立させるために大きな役割を果たすものと期待をしていますが、具体的な教育の場では「看護歴史」の授業の位置づけ、あるいは「歴史的視点」の教育的価値が問われるものと考えます。そして実際短縮される時間の中で、いかに学生の興味や関心を喚起し、効果的な授業を展開するかは、看護歴史を担当する教師の腕にかかっています。そのためには自分自身が看護歴史を楽しみながら授業を展開すること、さらに史料の収集から適切な史料批判など、歴史研究のステップを確実に踏み進め

ることが必要でしょう。今年も、志を同じにするこの学会で学ばせていただきたいと思っています。

第四回日本看護歴史学会大会および 関連行事の日程きまる。

去る一月七日の幹事会において一九九〇年度の第四回大会および関連行事を次のように開催することに決定いたしました。詳細については、次号で再度御連絡いたします。

去る一月七日の幹事会において一九九〇年度の第四回大会および関連行事を次のように開催することに決定いたしました。詳細については、次号で再度御連絡いたします。

会場 日本赤十字看護大学
会期 8月18日(土)8月19日(日)

13時45分～16時30分
シンポジウム
「看護史研究の実践」
シンポジスト
小南吉彦氏(ナイチンゲール研究会)
他二名 交渉中

研究報告の募集について

第一日(8月18日)
12時 開場
12時30分 受付開始
13時～14時30分 講演
「歴史研究の基礎」
講師 交渉中
15時～16時 会員による研究報告
16時～17時 総会
18時～20時 懇親会
第二日(8月19日)
9時～12時 分科会
13時～13時30分 分科会経過報告

研究報告を募集いたします。応募される方は、次の要領で、大会事務局へ郵送して下さい。
一、研究報告のテーマ
二、要旨(研究目的、史料収集の方法、結果の概要および結論等400字詰原稿用紙、縦書B5判、二～三枚)
三、報告書送付先
〒280千葉市亥鼻一―八一―
千葉大学看護学部
高橋みや子研究室気付

日本看護歴史学会

大会事務局 宛

※封書には「研究報告申込み書在中」と朱書のこと。

- 四、応募締切り
一九九〇年五月三十一日(木)
- 五、研究発表採用決定通知発送
一九九〇年六月三十日(土)

分科会活動を

皆で盛りあげよう

高橋みや子

大会時の分科会は、研究領域別の集まりで、本学会で重視している事のひとつです。一度開いた分科会は継続し、さらに既成の枠にとらわれず、新しい分科会をつぎつぎと開いて研究成果を蓄積して行き、遠い将来、看護史学を体系化し確立させたいと考えています。分科会を活発にするためには、一分科会に二～三名の話題提供者がいることと、会員が主体的に参加することが必要です。次に、第三回大会までの分科会の話題提供者と内容を紹介いたします。(敬称略) 参考にして、奮って分科会活動に参加しましょう。

※文学・映像に見る看護：高田節子他、五十嵐節「讃岐典待日記」、小山千加代「病草紙にみる(病人)と(病人)のとらえ方」
※ナイチンゲール：三村公子他、上岡澄子「わが国におけるナイチンゲールの受容」
※看護教育史：藤村龍子他、同氏「看護教育史における研究課題と視座」、同氏・山崎雅代「改正カリキュラムを歴史的視点からみる」
※GHQ：ライダー島崎玲子他、同氏「戦後の占領政策と看護改革」、田中幸子「GHQによる民主化政策―看護改革の導入」
※臨床看護史：大西雅子「記念誌からみた大学病院における看護衣の変遷―近代史を中心に―」、鶴沢陽子「官制心得等からみた近代看護管理者の名称、定員、地位、職務の変遷について」
※癩看護史・疾病看護史：白川康一「癩看護史」
※宗教と看護：吉田弘子「仏教と看護」
※公衆衛生看護：佐々木美幸「鳥取県における農村保健婦養成のは

